

第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の振り返り

1 検討体制



2 第4回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の振り返り

2.1 開催概要

日時	令和7年2月13日(木)14:00～16:00
場所	名護市屋部支所会議室及びWeb
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第3回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の振り返り (2) 第3回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告 (3) 名護市中心市街地のまちづくりの方向性の共有 <ul style="list-style-type: none"> -住民ワークショップや高校生アンケート、実証実験等の結果の報告 -第3回協議会でのご意見を踏まえたまちづくりのコンセプト・ゾーニング等の共有 -災害発生時のイメージ、ターミナルの整備イメージの共有 (4) 名護市中心市街地のまちづくり推進協議会の進め方



▲当日の様子

2.2 議事要旨

<前回の主な指摘と対応事項>

赤字：今回の協議会での具体的な対応

1. 施設配置について

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能が海側に配置される計画は避けるべきである。配置例②の方が良い。 ・配置例②の方が交流等機能や交通機能が充実できるものと期待している。ただし、利用者にとって行き先と乗り場がわかりやすい整備にして欲しい。また、歩行者デッキについては、幅員を広くとる、雨に濡れないようにする等の工夫を検討いただきたい。 ・配置例①は漁港内部で転回して道路に出る計画と理解しているが、漁港は17時以降は施錠しているため現実的ではない。盗難のリスクもあるため、漁港の24時間の開放は難しい。 ・道路の計画について、橋と橋の間の区間のみを検討しているが、港区側の交差点では、国道58号と市道名護1号線間の停車帯が短いため、事故が多くなっており、上記部分の解消も含めて道路を改善してほしいと以前より要望している。橋の位置を固定とすることは決定した事項なのか。施設の中身だけではなく、道路についてもしっかりと検討してほしい。何度も言っているが、今回整備を行ったら今後100年～200年は方線が変わることはないので、中途半端なやりかたはせず、名護市のまちづくりのためにも思い切った方線変更を実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、名護市総合交通ターミナル検討部会と連携し、各配置案等を検討する。 <p>→最新のターミナル検討部会の資料で配置の考え方を提示</p>

2. 総合交通ターミナルの機能について

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・市街地側の交流等機能として、平常時は有料で上ることができる展望台、災害時は一時避難場所として機能する「名護タワー」を整備するのはどうか。 ・名護市で乗り換えをして、降りて、まちに繰り出そうと思うような目的化が重要である。現在は市民に対するアンケートをしているが、観光客が訪れたいくなるような計画も検討するべきである。 ・シンボルロードをひんぷんがジュマルまで延ばし、広場化することで、観光客が写真を撮りに来る等の一見の価値がある場所（目的地）にできるのではないかな。 ・シンボルロードの拡幅により、車椅子の方でも歩きやすい街になることを期待している。 ・総合交通ターミナルが開業する頃には、那覇空港自動車道（小禄道路）が開通していると思われるため、飛行機を降りてから1時間～1時間半程度（夏のピーク時であれば、飛行機を降りてからレンタカーを借りるまでの時間と同程度）で名護に来られるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地、総合交通ターミナルとも指摘を踏まえて、引き続き検討する。 <p>→集客施設の考え方や事例について提示</p>

3. 防災機能について

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルロードは8m拡幅することであるが、沿道の建物の高さは何m程度を想定しているのか。 ・本計画では、観光客と市民を呼び込むことを目的としているため、垂直避難ができる場所は最低限必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画等の考え方を確認し、避難人数等を整理したうえで施設規模を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・名護市における津波の到達時間は20分と想定されており、20分の間に相当量の人々が避難してくることが予想される。避難人数を踏まえて、施設規模を検討いただきたい。 	<p>→集客施設兼津波避難施設の事例について提示</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・防災について、地域防災計画等の各種計画の中で、想定避難人数や課題が整理されているはずである。全体計画の中での位置付けを整理するべきである。 	
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

4. ターゲットについて

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトとゾーニングについて、ターゲットが分からなかった。立ち寄り場所とするのか、宿泊場所とするのか、市民向けなのか、観光客向けなのか、ターゲットによって必要な施設が異なる。ターゲットを整理した上で検討する必要がある。 ・人を呼び込むためには「食」が重要である。農業、漁業の振興にもつながる。 ・急速に高齢化が進行している背景から、旅好きの高齢者をターゲットとすることも考えられる。「美味しいものが食べられるまち」は上記ターゲットとも親和性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、総合交通ターミナルと街なかの機能について検討する。 ・ジャングリア開業の影響について把握し、その影響も含めて、ターゲットを整理していく。 <p>→ジャングリア開業の状況や街なかへの影響について意見交換</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・免許証を保有する人口が減少していくことが予想され、公共交通を利用した観光の需要が高くなることが考えられる。バスの利便性をどう図るかが重要である。 ・市街地だけではなく、名護湾全体を捉えた視点、面的な視点でも検討した方が良いのではないか。 ・昼間人口と夜間人口で属性や利用形態が異なるため、これらを踏まえて観光資源をどう生かすか議論ができると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名護漁港周辺エリア外との連携について、引き続き検討する。

5. まちづくり組織や仕組みについて

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちのあり方を話し合う場があると良い。アーバンデザインセンターのように、行政主導だけではない形も視野に入れながら、現段階からまちのコンセプトを話し合う場や、試行的に空間を使う活動等ができる組織体ができると良い。 ・若い世代等も交えながら多世代で議論できる場を開催してほしい。 ・市民の意見を聞き続ける仕組みを検討してほしい。始めは行政が仕切る必要があるかもしれないが、他の主体も巻き込みながら仕組みを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり組織等のあり方について検討を進める。 <p>→アーバンデザインセンターの事例や名護市中心市街地での動きについて報告</p>

7. その他

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・名護十字路からひんぷんガジュマルまでの区間を常時歩行者天国とし、公園化することも検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いた意見を参考に検討を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> ・本来のシンボルロードはひんぷんガジュマルからの横の通りであり、さくら祭りでの歩行者天国も同区間で行われている。横の通りを含めたシンボルロードも検討しても良いのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーやインクルーシブには留意して検討を進めてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・国道 58 号沿いに石碑があり、漁業にも関連する内容の石碑である。この石碑を意識した計画としてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄振興計画の後期に本計画の議論が反映できるよう、県の計画との関係性について、次の協議会で説明してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ミサイルから身を守るシェルターの整備も検討してほしい。 	

以上